

第 9 次氷見市総合計画策定に係る基礎調査

# 市民意識調査結果概要

この市民意識調査は、第 9 次氷見市総合計画の策定のための基礎調査として実施し、平成 22 年 6 月に実施した市民意識調査と同様に実施することにより、その間の変化等を分析して、新総合計画に反映していくこととしています。

## I 調査の概要

(1) 調査対象

令和 2 年 6 月 1 日現在の住民基本台帳に記載されている市民から無作為抽出した 3, 000 人

(2) 調査方法

郵送による配布と回収

(3) 調査期間

令和 2 年 6 月 25 日から 7 月 22 日まで

(4) 回収結果

配布数	回収数	回収率
3, 000 件	1, 515 件	50.5%
(3, 000 件)	(1, 869 件)	(62.3%)

※ ( ) は、平成 22 年調査の数値であり、調査対象及び調査方法は、本調査と同様です。

(5) 数値の表記

各集計結果に示した回答数の割合 (%表記) は、原則として無回答者を含めた当該設問の全回答者数に対する割合を示しています。数値は小数第 2 位で四捨五入しているため、合計の数値が 100%にならない場合があります。1 人に 2 つ以上の回答を求める設問では、合計が 100%を超えます。

(6) 前回調査等との比較

平成 22 年に実施した「氷見市市民意識調査」(以下、「前回調査」と表記します。)との比較を行っています。

## II 今回の調査結果の特徴

### 1 総合計画において力を入れるべき施策について

今後10年間のまちづくりの方向性について、次の分野ごとに考え方を尋ねた。(いずれも3項目まで選択する質問)

#### (1) 社会基盤整備

今回調査では、上位から「空き家等の対策・利活用(38.9%)」、「生活交通の確保(36.6%)」、「街路や生活道路の整備(24.0%)」という順で、身近な生活環境の充実に関するものの割合が高いままとまっている。

#### (2) 福祉・生活

上位から「高齢者福祉の充実(40.6%)」、医療の充実(39.1%)、「子育て支援の充実(21.1%)」が続いている。新型コロナウイルス感染症の拡大から、今回新たな質問項目として設けた「感染症対策の充実(16.1%)」を望む回答も多くあった。

#### (3) 産業・教育・文化

今回調査では、「中小企業・地元産業の振興(30.6%)」、「若者・高齢者の雇用対策の推進(30.2%)」、「中心市街地のにぎわいの創出(24.8%)」という順で、産業振興や雇用確保を望む結果は変わっていない。

### 2 分野別の重点施策項目

各課題への対応策について項目ごとに考え方を尋ねた。

#### (1) 若者の定着、流入の促進について(3項目まで選択可)

若者の定着、流入の促進については、上位から「若者が魅力を感じられる職場の確保(60.3%)」、「子どもへの医療費助成や保育内容の充実など子育て環境の向上(33.6%)」、「美しい自然や歴史文化、新鮮な食など氷見市の魅力のアピール(24.2%)」となっており、前回調査から順位の変動はみられない。

また、「若者の所得水準で入居できる公共住宅の建設(21.7→15.4%)」が減少している。

#### (2) 高齢化対策について(3項目まで選択可)

前回調査にはなかった「高齢者の交通手段の確保(39.2%)」が1位となり、続いて「地域医療の充実(30.1%)」、「独居老人等の安全対策や買い物サービス等の生活支援の推進(27.9%)」となった。

また、新たに設けた「未来技術の活用」や「外国人の受入れ」を望む回答もあった。

**(3) 安心して子どもを産み育てられる環境づくりについて**（3項目まで選択可）

安心して子どもを産み育てられる環境づくりについては、「子どもに対する医療費の助成など経済的支援の充実（28.0%）」、「前回調査にはなかった「市内の産科施設の維持・確保（23.2%）」が2位となり、続いて「地域子育てセンターなど気軽に相談できる機能の充実（22.3%）」となった。

前回調査から「小児救急体制の充実」を望む回答が約17ポイントの減となった。

**(4) 教育、文化の振興について**（3項目まで選択可）

「学校施設の整備、充実（32.1%）」、「郷土の良さを知り、郷土を愛する教育の充実（27.6%）」、「学校・家庭・地域の連携強化（24.4%）」と順位の変動は見られなかった。

しかし、前回調査になかった「魅力ある教育プログラムの充実」や「ICTを活用した教育の推進」を望む回答もあった。

**(5) 環境問題について**（3項目まで選択可）

「ごみの減量やリサイクルの推進（41.7%）」、「河川等の水環境の保全（38.3%）」が3位から2位となり、「緑化等による森林の保全（28.6%）」が2位から3位となった。

ただし、「ごみの減量やリサイクルの推進」については、37.6→41.7%と回答割合が上昇した。

**(6) 中山間地について**（3項目まで選択可）

「除雪、融雪装置の整備（36.5%）」、「路線バスなど公共交通機関の維持（30.4%）」、「幹線道路・集落内道路の整備（21.8%）」となり、前回調査から順位の変動は見られない。

ただ、前回調査になかった「危険老朽空き家の対策」や「5Gなどの未来技術の活用」を望む回答もあった。

**(7) 農林業について**（2項目まで選択可）

前回調査にはなかった「いのしし等の鳥獣被害対策（23.5%）」が1位となり、続いて「次代の農林業を担う後継者の育成（23.1%）」、「特産品の開発や氷見ブランドの農産物などのPR強化（17.5%）」となった。

前回調査で2位であった「学校給食等での地元産食材の積極的活用など地産地消の推進（25.3→13.6%）」が大きく減少し、4位となった。

また、今回調査で新たに設けた「ドローンなどの先端技術を活用したスマート農・林業の推進」や「氷見産材の活用」、「農業と福祉の連携」を望む回答も見られた。

**(8) 水産業・水産加工業（2項目まで選択可）**

「次代の水産業を担う後継者の育成（41.6%）」、「特産品の開発や氷見ブランド水産品のPR強化（26.5%）」、「漁場の造成や栽培漁業などの生産基盤の整備（20.0%）」となった。

前回調査で3位であった「学校給食等での地元産食材の積極的活用など地産地消の推進（24.7→19.1%）」が減少し、4位となった。

ただ、「インターネットの活用等による水産物の販路拡大（8.5→14.9%）」を望む回答が多くなった。

**(9) 商工業・サービス業（2項目まで選択可）**

「氷見市の魅力の全国へのPR（37.4%）」、「魅力ある商店街づくりの支援（31.7%）」、「企業立地の促進（22.6%）」となっており、回答割合に変動はあるものの、順位に変動はなかった。

ただ、「創業・起業に対する支援（13.8→17.6%）」となり、前回調査より多くの方から望まれるものとなった。

**(10) 観光振興（2項目まで選択可）**

前回調査にはなかった「新高岡駅からの2次交通の整備（28.3%）」が1位となり、続いて「大都市圏に向けた観光宣伝・PRの強化（19.1%）」、「映画やテレビドラマなどの撮影場所として誘致推進（18.8%）」となった。

ただ、「地域で新たに観光振興に取り組もうとする人やグループへの支援の拡充（14.2→16.6%）」を望む回答が増加し、「広域的に連携した情報発信の推進（21.8→9.7%）」が大きく減少した。

**(11) 中心市街地（2項目まで選択可）**

「住む人にも訪問する人にも魅力的と感じられる街並みや空間があるまち（37.0%）」、「子どもや高齢者等が安心して移動できるまち（25.0%）」、「歩いていける範囲で全てがそろそろコンパクトで機能的なまち（25.0%）」となり、前回調査で2位の「市外から多くの人を訪れる魅力ある観光のまち」が4位となった。

また、「ゆったりとすごせる余裕のある空間があるまち（14.0→15.9%）」を望む回答が多くなった。

**(12) 地方創生（協働のまちづくり）の推進について（2項目まで選択可）**

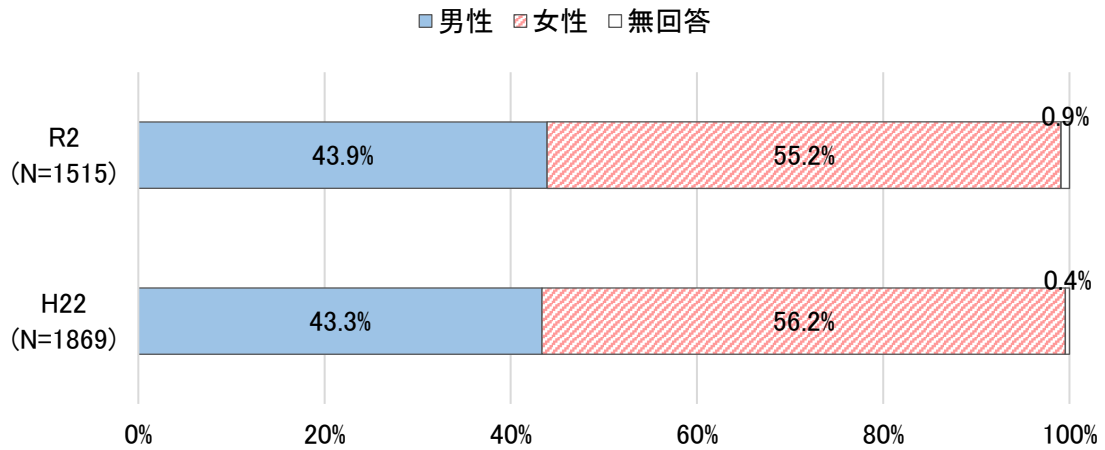
「市民と行政の交流や意見交換の機会の拡大（28.4%）」、「市政の情報提供の充実（25.2%）」、「まちづくりなどの計画策定に市民が参加する機会の拡大（21.3%）」となった。

また、「広報等による市民活動の情報発信の充実（18.3→20.4%）」を望む回答が多くなった。

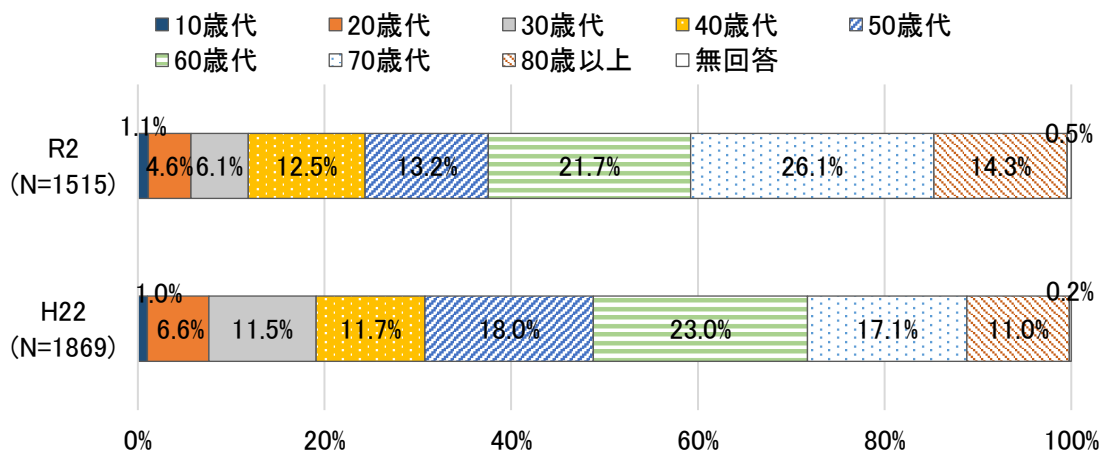
### III 調査結果

#### 1 回答者の属性

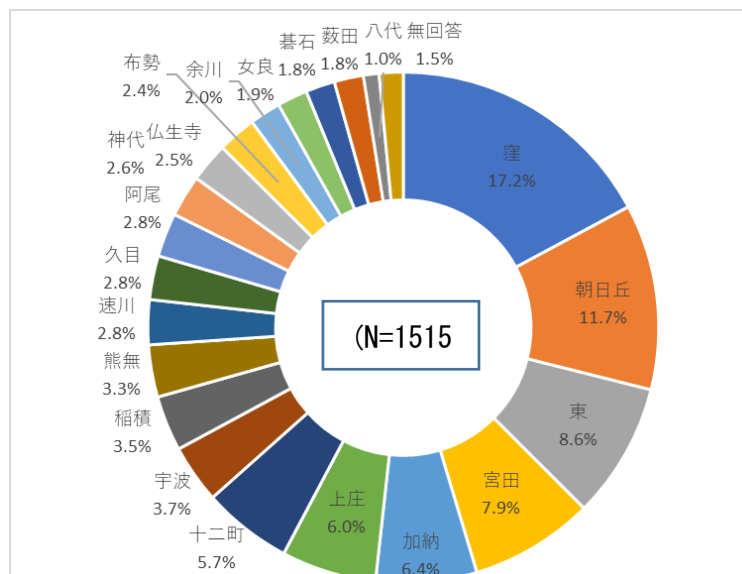
##### 問1 (1) 性別



##### 問1 (2) 年齢

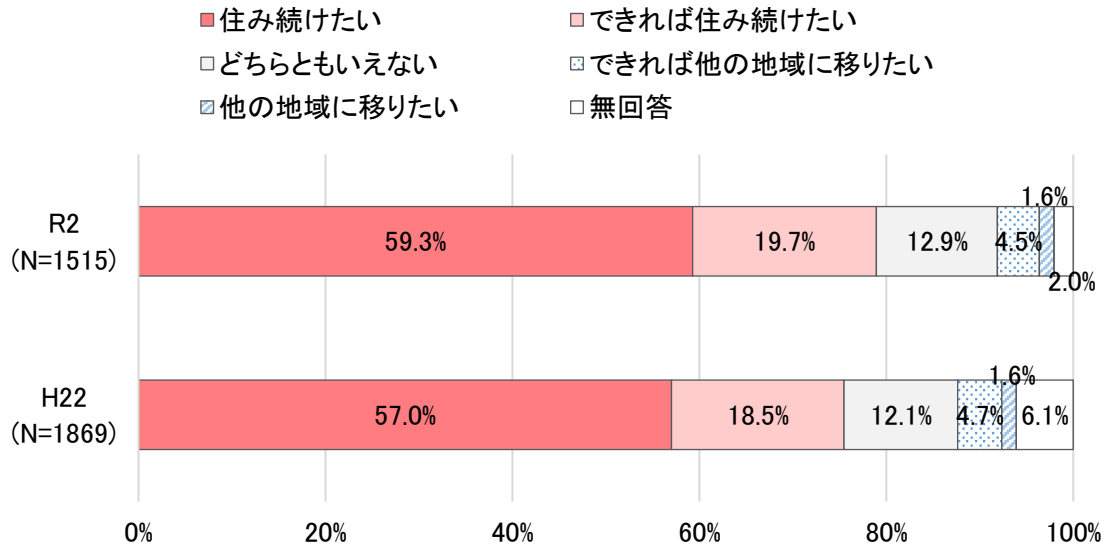


##### 問1 (3) 居住地区



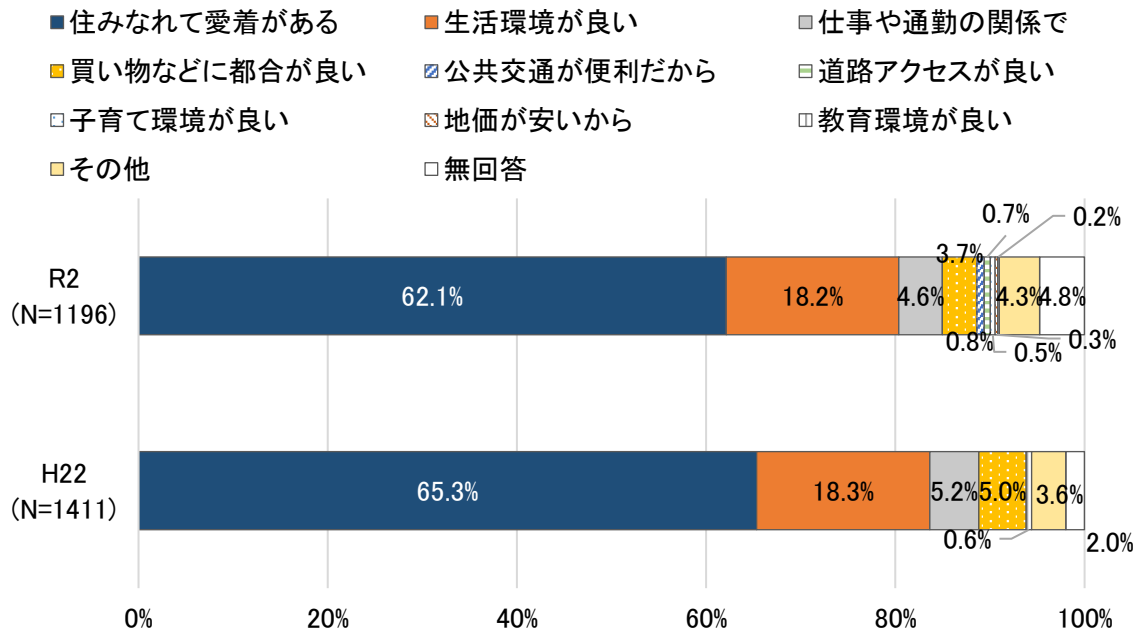
2 居住意向

問2 あなたは、これからも今お住まいの所に住みたいと思いますか。



問2で「住み続けたい」または「できれば住み続けたい」とお答えされた方におたずねします。

(1) あなたが住み続けたいと思う理由を、1つお選びください。



「住み続けたい」、「できれば住み続けたい」を合わせた定住意向の回答は全体の79%となっており、定住理由については、「住みなれて愛着がある」との回答が約3分の2となっている。

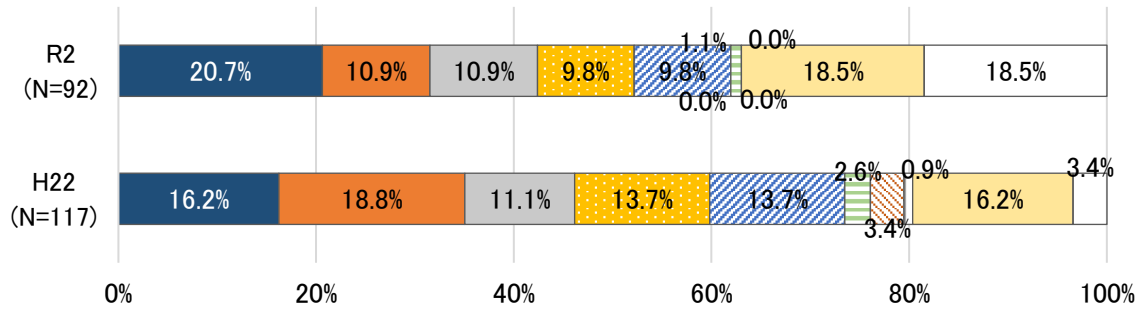
【平成22年調査との比較】

前回調査では、「住み続けたい」、「できれば住み続けたい」を合わせて75.5%となっており、今回調査では3.5%の増となっている。

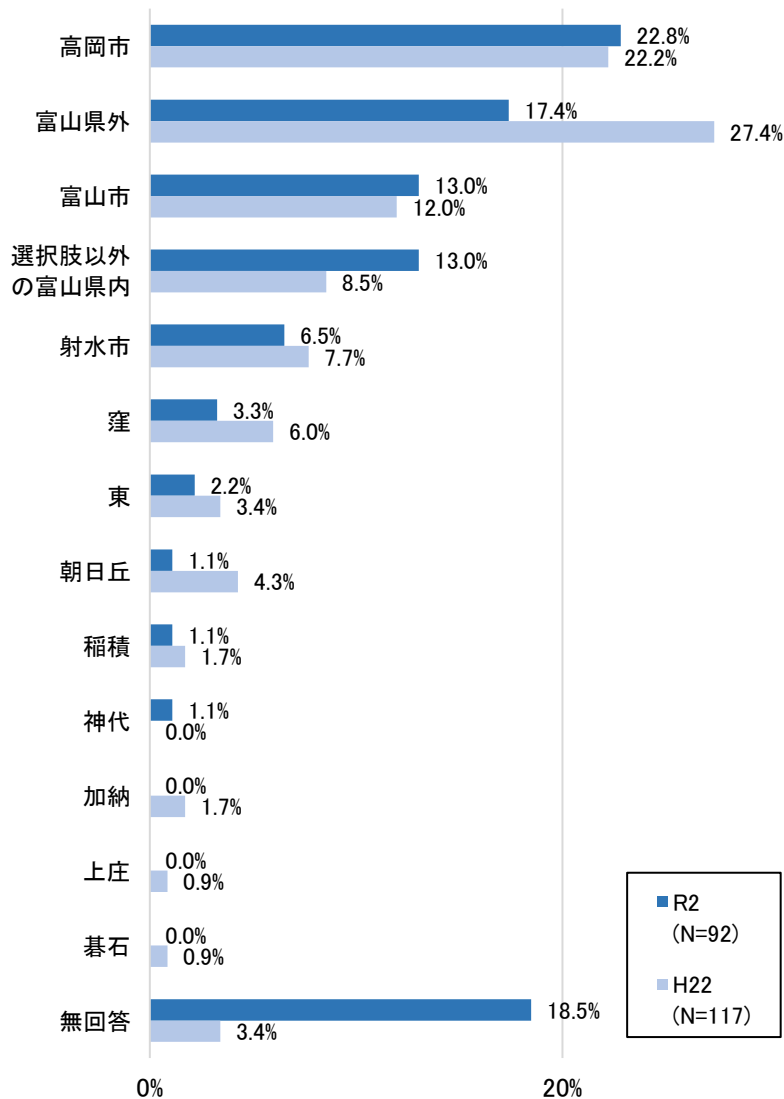
問2で「できれば他の地域に移りたい」または「他の地域に移りたい」とお答えされた方におたずねします。

(2) あなたが他の地域に移りたいと思う理由を、1つお選びください。

- 生活環境が悪い
- 公共交通が不便だから
- 買い物などに不便
- 仕事や通勤の関係で
- いくら住んでも愛着がわからない
- 道路アクセスが悪い
- 子育て環境が悪い
- 教育環境が悪い
- 地価が高いから
- その他
- 無回答



(3) 他の地域に移るとすれば、どこへ移りたいとお考えですか。



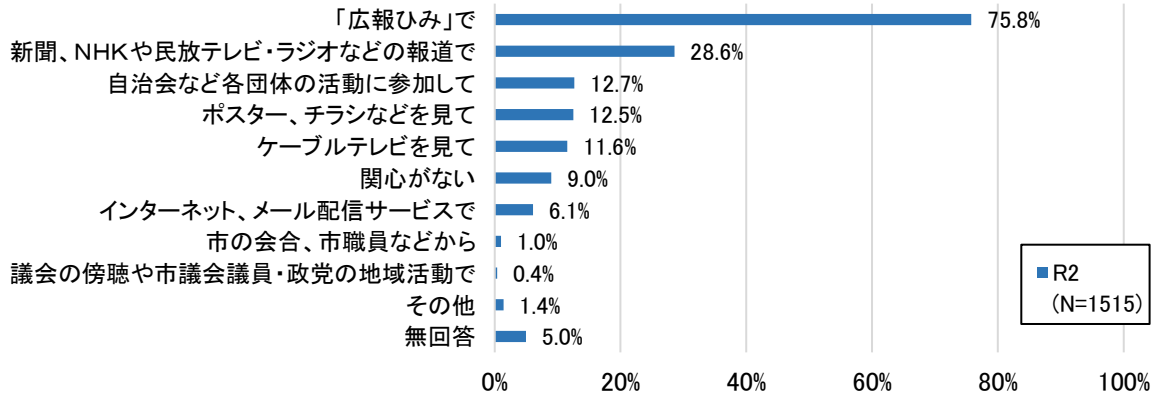
「他の地域に移りたい」、「できれば他の地域に移りたい」を合わせた転出意向の回答は全体の6.1%となっており、理由としては、「生活環境が悪い」などさまざまな理由が挙げられており、転出先として市外を希望される方が72.7%に達している。

【平成22年調査との比較】

前回調査では、「他の地域に移りたい」、「できれば他の地域に移りたい」を合わせて6.3%であったが今回は、0.2%減となっている。

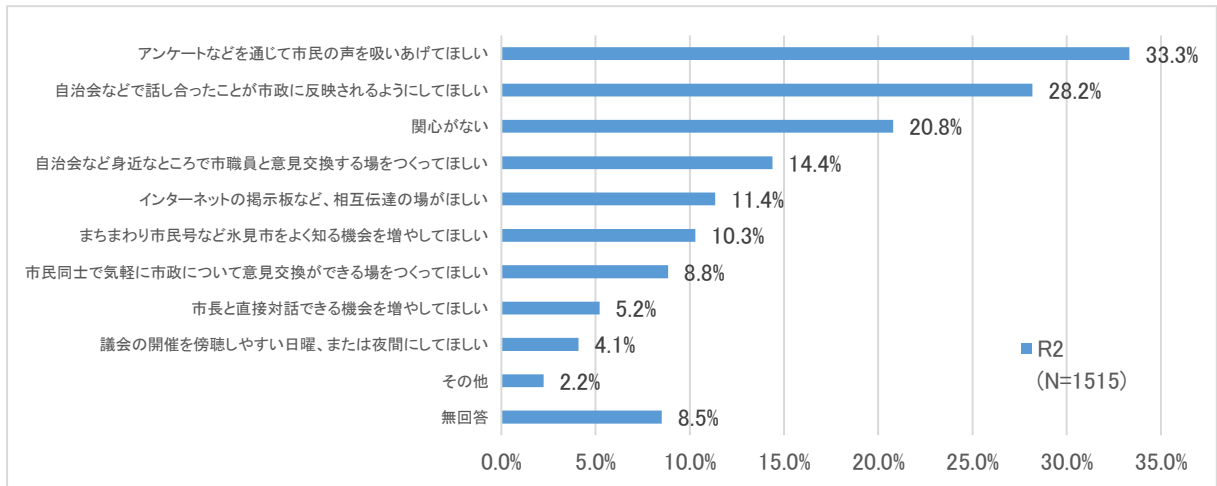
3 市政参加

問3 あなたは、市の仕事や行事などをどのような方法でお知りになりますか。(2つまで選択)



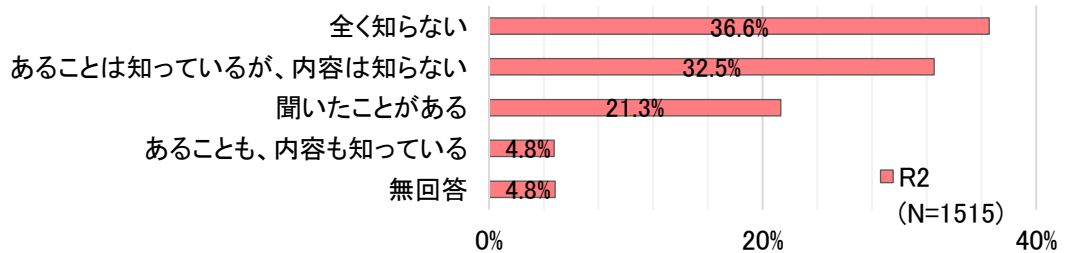
市の情報を知る方法として、「広報ひみ」を挙げた割合は全体で75.8%となった。

問4 市政への市民参加を進める方法として、あなたが希望するものは何ですか。(2つまで選択)



市政への市民参加の方法としては、「アンケートなどを通じて市民の声を吸い上げてほしい」が33.3%と最も多い。

問5 あなたは、氷見市に総合計画があることをご存じですか。



総合計画の認知度については、「全く知らない」との回答が36.6%に達した。「あることも、内容も知っている」との回答は4.8%にとどまった。

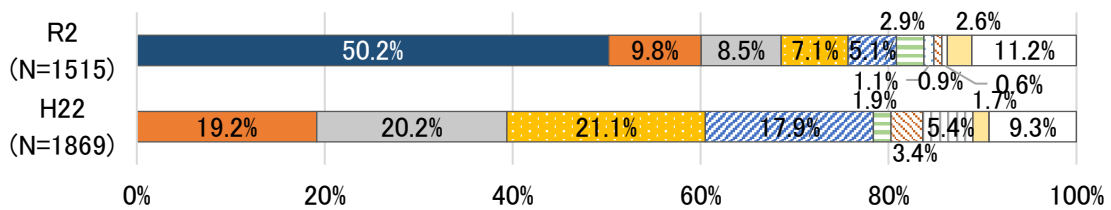


#### 4 総合計画において力をいれるべき施策

問6 第9次総合計画では今後10年間のまちづくりの方向を定めることとしております。新たな総合計画の策定に当たり、市として今後どのような施策に力を入れていくべきとお考えですか。

(1) 市行政について、今後10年間で特に力を入れていく必要があると思われるものを1つお選びください。

- 地方創生の推進
- 情報公開の推進
- 市のイメージアップの推進
- 職員の意識改革
- 行財政改革
- 電子化・情報化の推進
- 協働による行政の推進
- 広域行政の推進
- 地方分権の推進
- その他
- 無回答

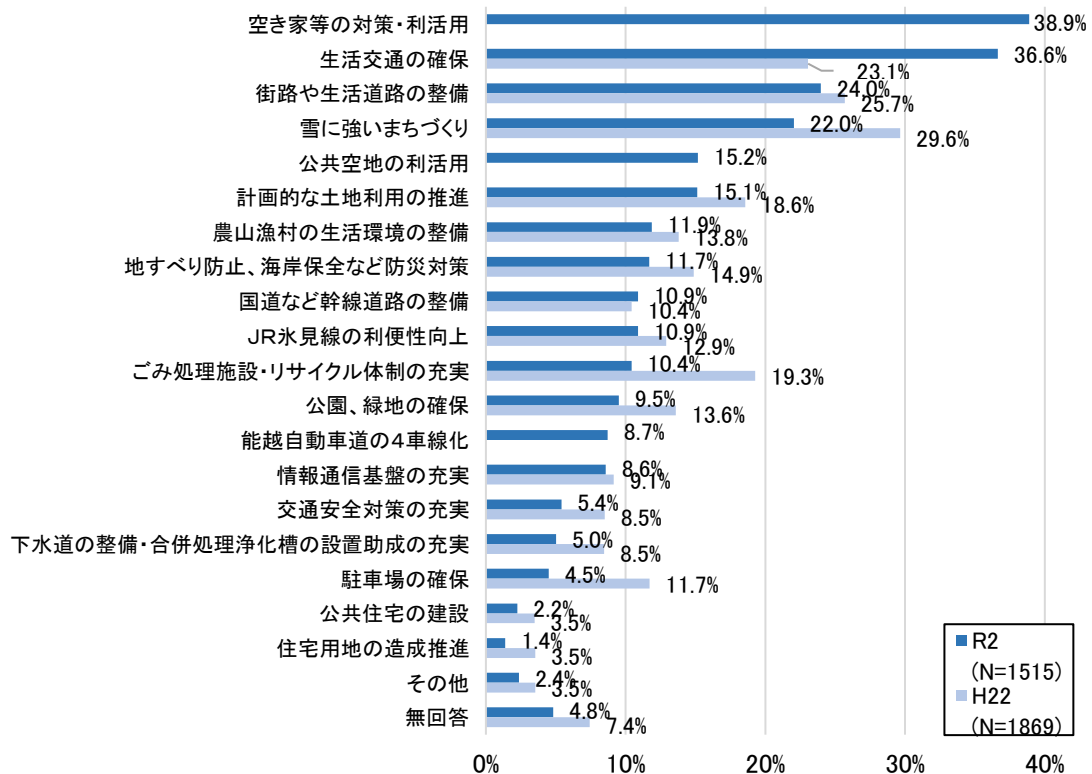


市の行政運営の分野については、「地方創生の推進」が半数を超え、そのあとに「情報公開の推進」、「市のイメージアップの推進」と続いている。

【平成22年調査】

10年前にはなかった地方創生推進が新規で半数以上を占めている。

(2) 道路や上下水道、住宅など社会基盤の分野について、今後10年間で特に力を入れていく必要があると思われる施策を3つまでお選びください。

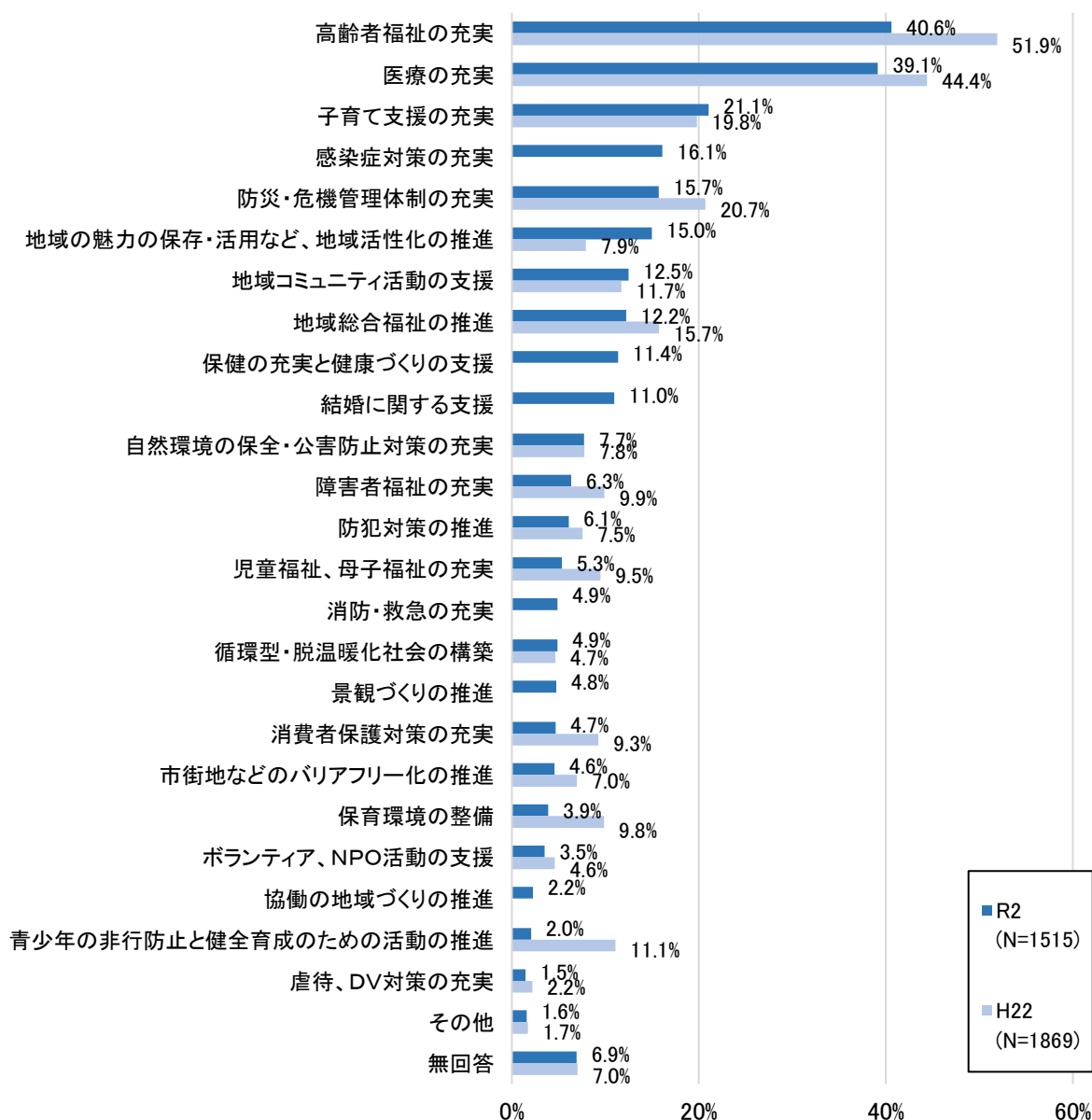


社会基盤整備については、「空き家等の対策・利活用」、「生活交通の確保」、「街路や生活道路の整備」といった回答が多く、身近な生活環境への関心が高い。

【平成22年調査との比較】

前回調査の結果と比較すると、「空き家等の対策・利活用」への関心度が高くなっているものの、依然として、身近な生活環境への関心が高いままとなっている。

(3) 福祉や生活などの分野について、今後10年間で特に力を入れていく必要があると思われる施策を3つまでお選びください。

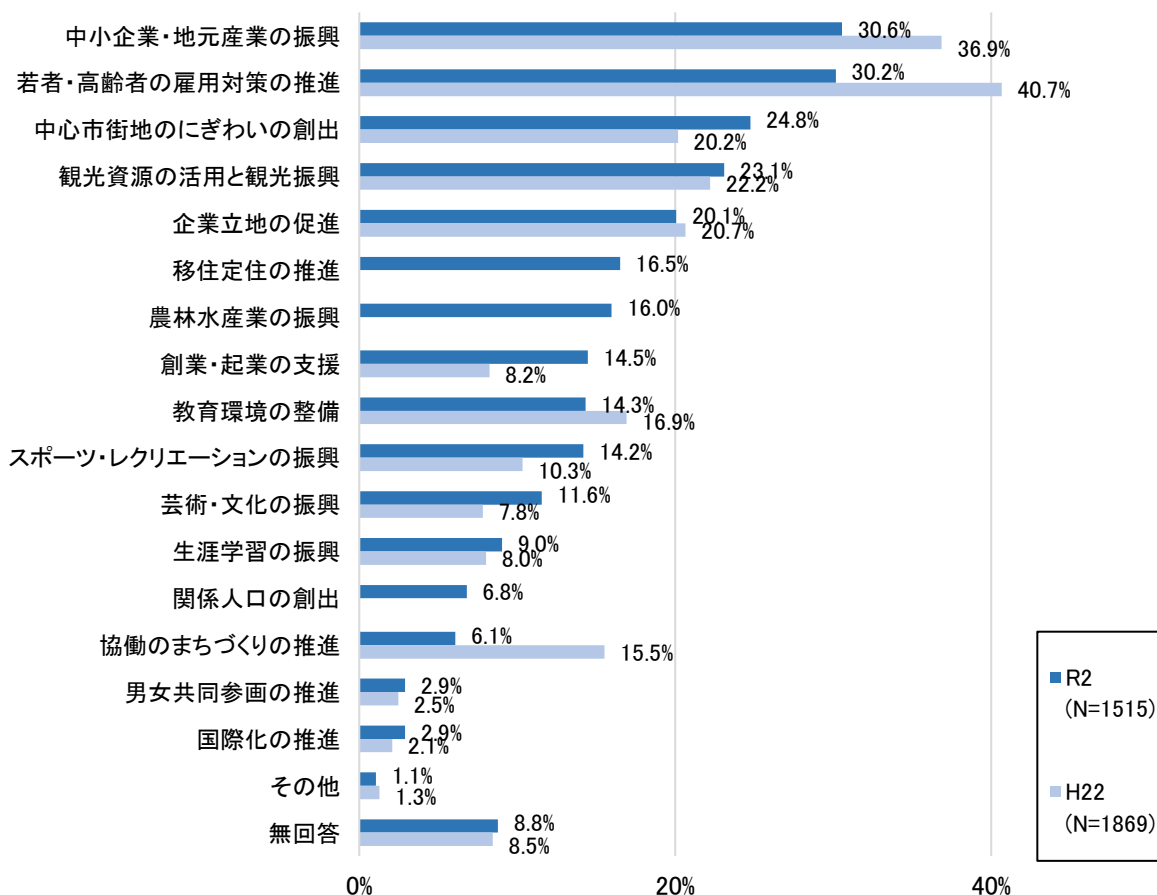


福祉・生活の分野では、「高齢者福祉の充実」と「医療の充実」が突出している。

【平成22年調査との比較】

前回調査と比較すると、新たに設けた「感染症対策」や「保健の充実と健康づくりの支援」や「結婚に関する支援」を望む回答も見られた。

(4) 産業や教育、文化などの分野について、今後10年間で特に力を入れていく必要があると思われる施策を3つまでお選びください。



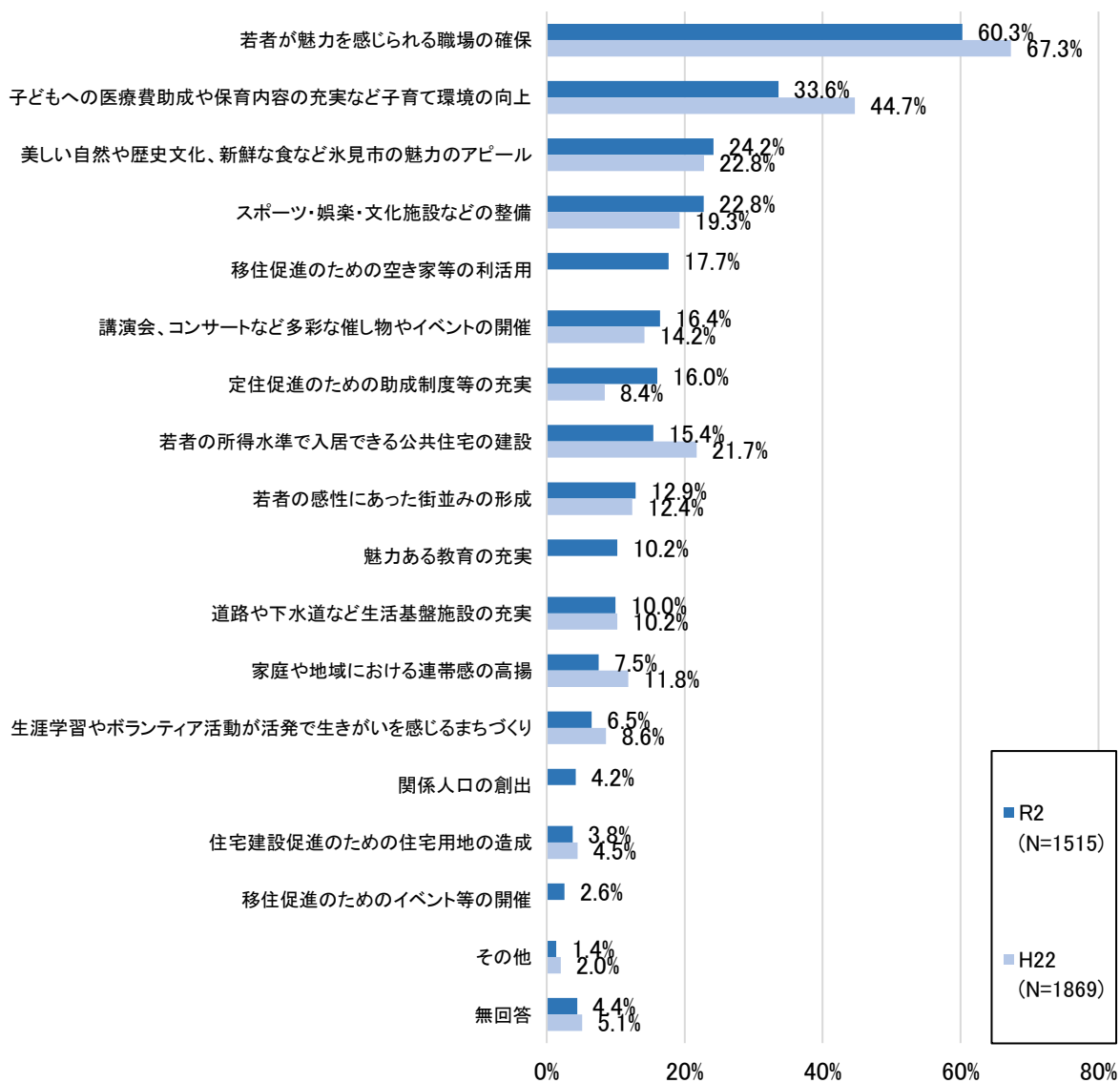
「中小企業・地元産業の振興」、「若者・高齢者の雇用対策の推進」、「中心市街地のにぎわいの創出」に回答が集中し、産業振興への意識の高さが現れる結果となった。

【平成22年調査との比較】

割合に変化があるものの、産業振興への意識が高いことが伺える。前回調査から新たに設けた「移住定住の推進」や「農林水産業の振興」を望む回答もあった。

## 5 分野別の重点施策項目

問7 氷見市への若者の定着、流入を促進するため、市が今後より力を入れるべき施策はどのようなものとお考えですか。次の中から3つまでお選びください。

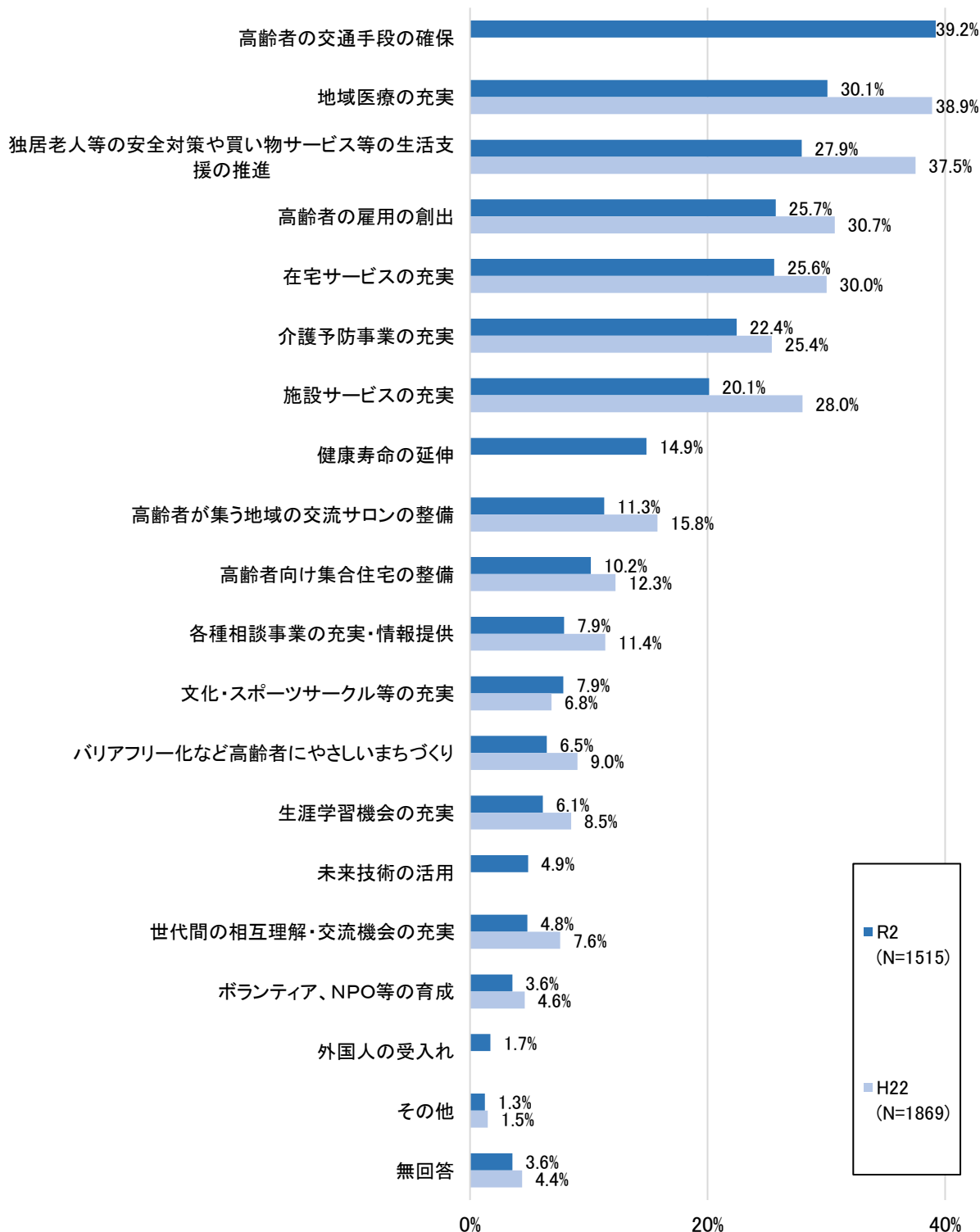


「若者が魅力を感じられる職場の確保」が全体の6割以上をしめている。

### 【平成22年調査との比較】

「移住促進のための空き家等の利活用」を新たに項目として設けたところ、17.7%の回答を得た。

問8 氷見市では今後さらに高齢化が進むと予想されますが、高齢化社会への対応として、市が今後より力を入れるべき施策はどのようなものとお考えですか。次の中から3つまでお選びください。

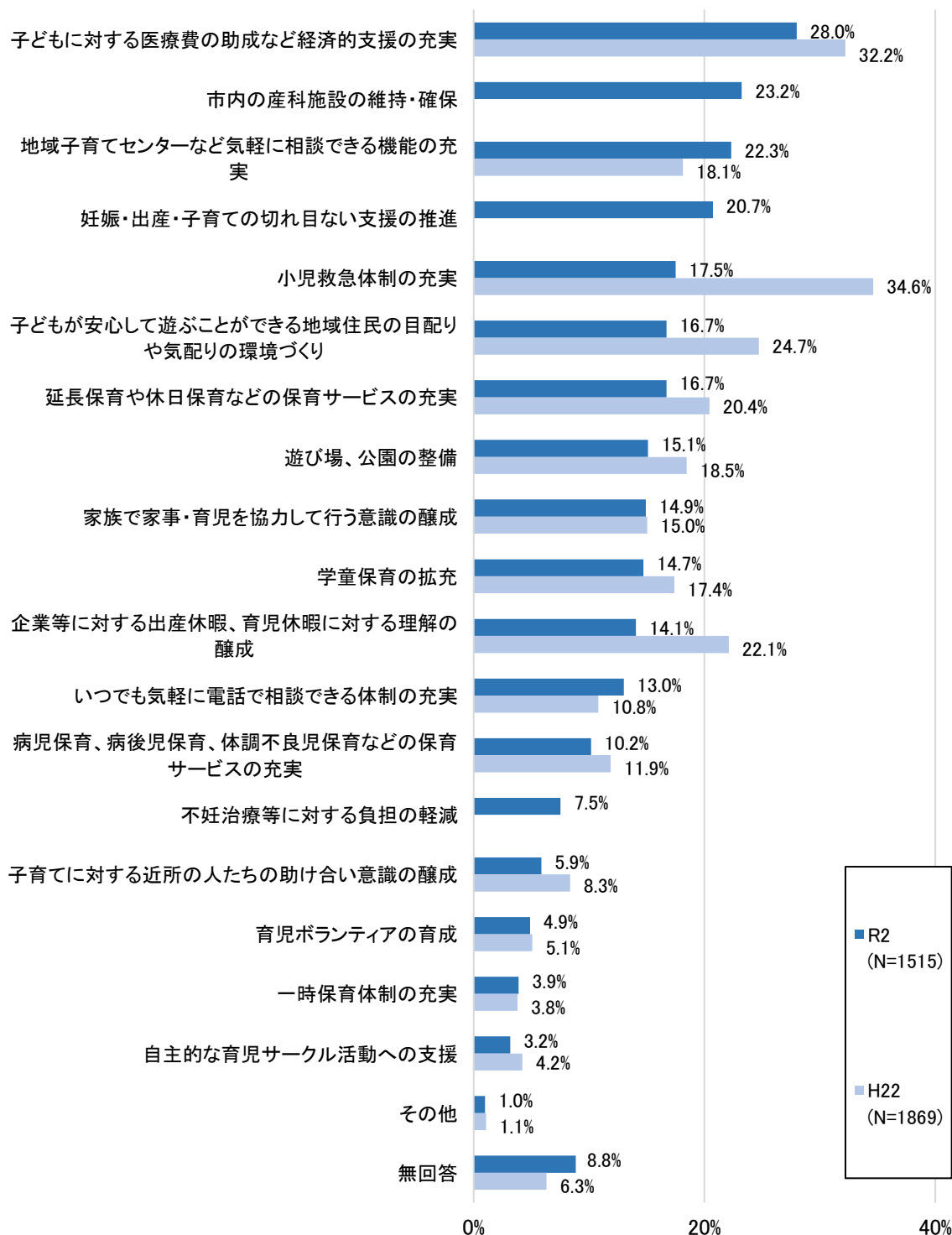


前回調査にはなかった「高齢者の交通手段の確保」が39.2%と一番回答が多かった。

【平成22年調査との比較】

健康等に関する回答も多かったが、「高齢者の交通手段の確保」について、関心が移っている。

問9 安心して子どもを産み育てられる環境づくりのために、市が今後より力を入れるべき施策はどのようなものとお考えですか。次の中から3つまでお選びください。

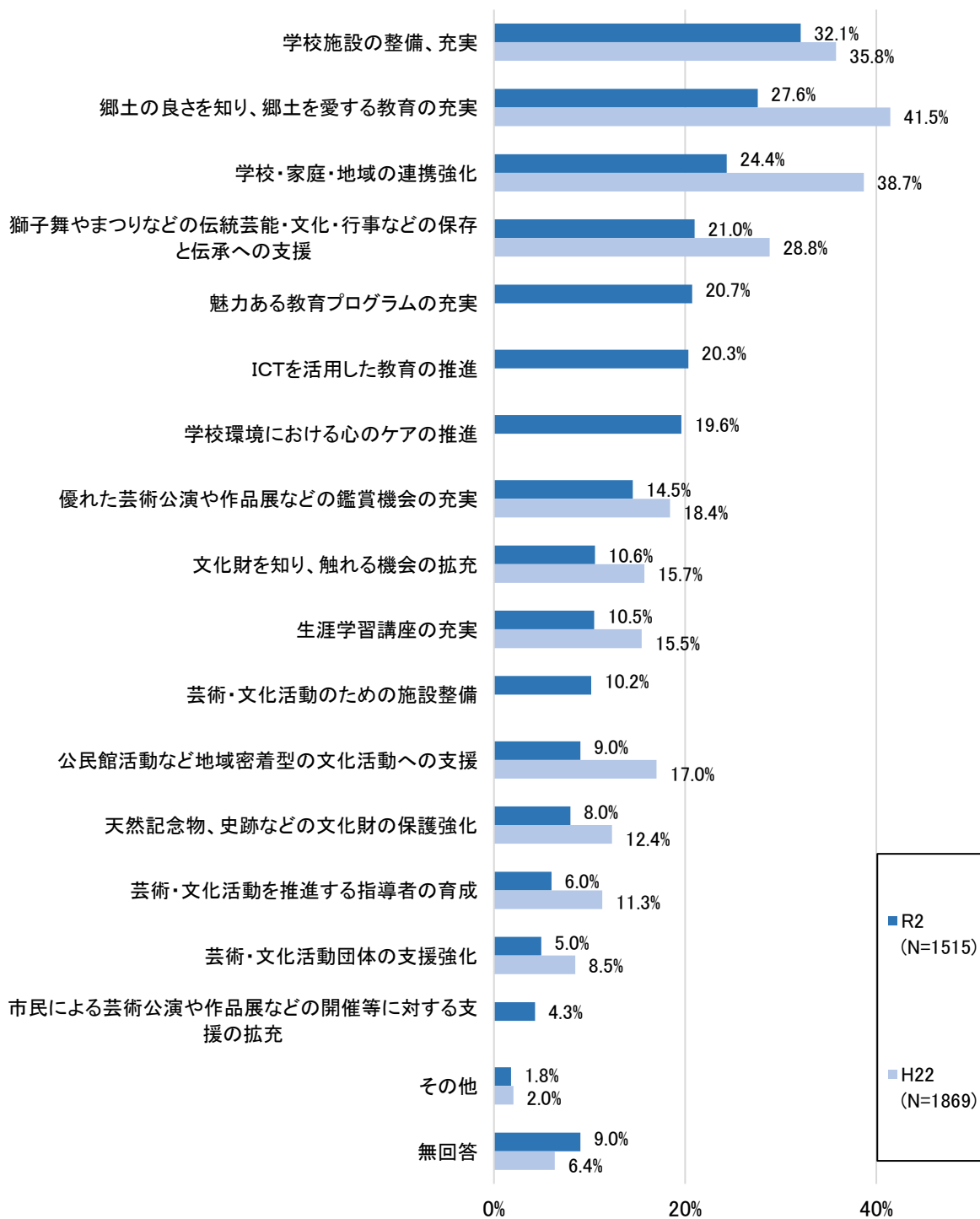


前回調査にはなかった「市内の産科施設の維持・確保」や「妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援の推進」を望む回答が多かった。

【平成22年調査との比較】

「小児救急体制の充実（34.6→17.5%）」が大きく減少した。

問10 教育、文化の振興について、市が今後より力を入れるべき施策はどのようなものとお考えですか。次の中から3つまでお選びください。

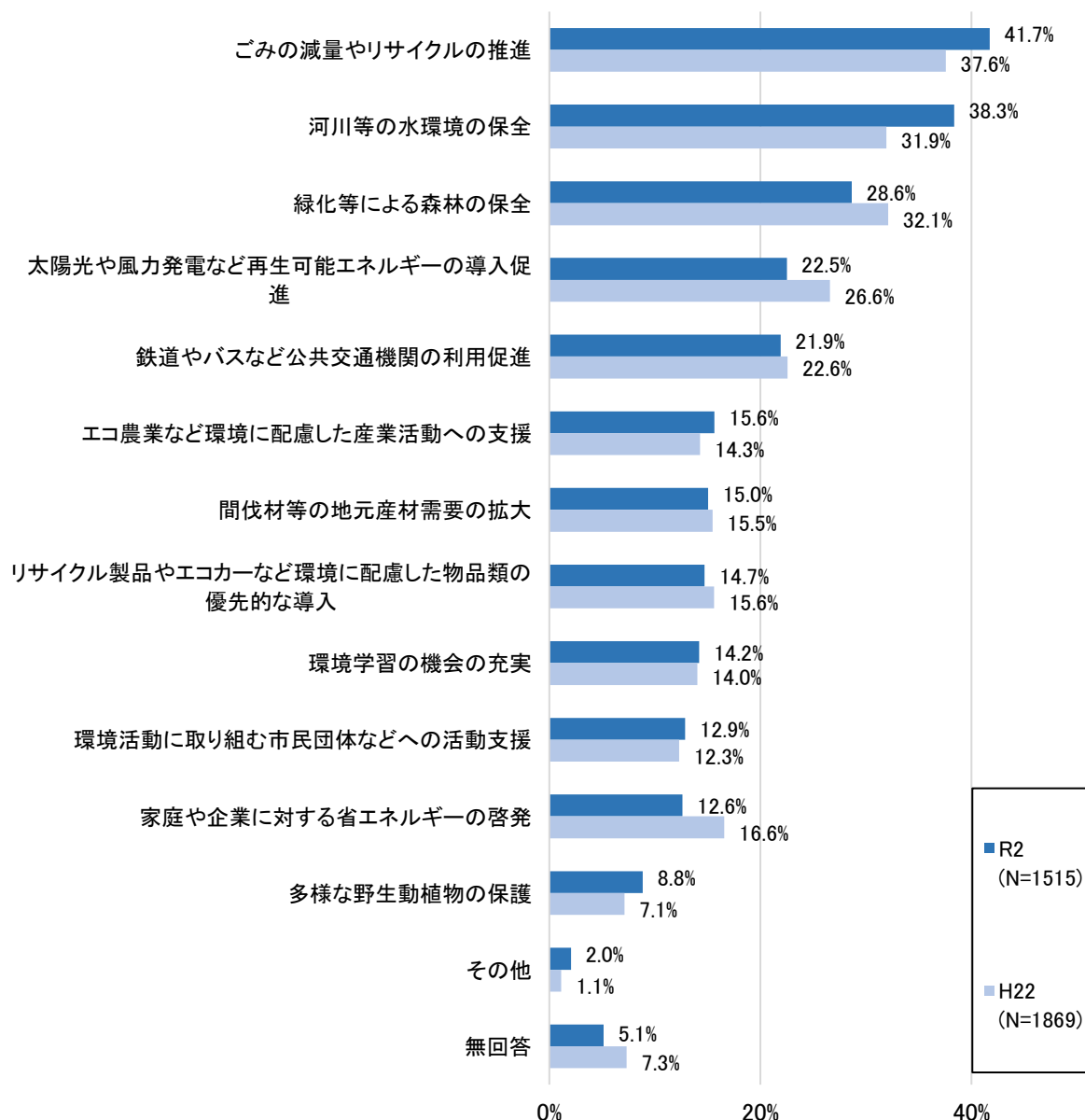


「学校施設の整備、充実」や「郷土の良さを知り、郷土を愛する教育の充実」を望む回答が減少した。

【平成22年調査との比較】

前回調査では、「学校施設の整備、充実」や「郷土の良さを知り、郷土を愛する教育の充実」を望む回答が多かったが、新たに設けた「魅力ある教育プログラムの充実」、「ICTを活用した教育の推進」、「学校環境における心のケアの推進」を望む回答も見られた。

問 1 1 環境問題への対応として、市が今後より力を入れるべき施策はどのようなものとお考えですか。次の中から3つまでお選びください。



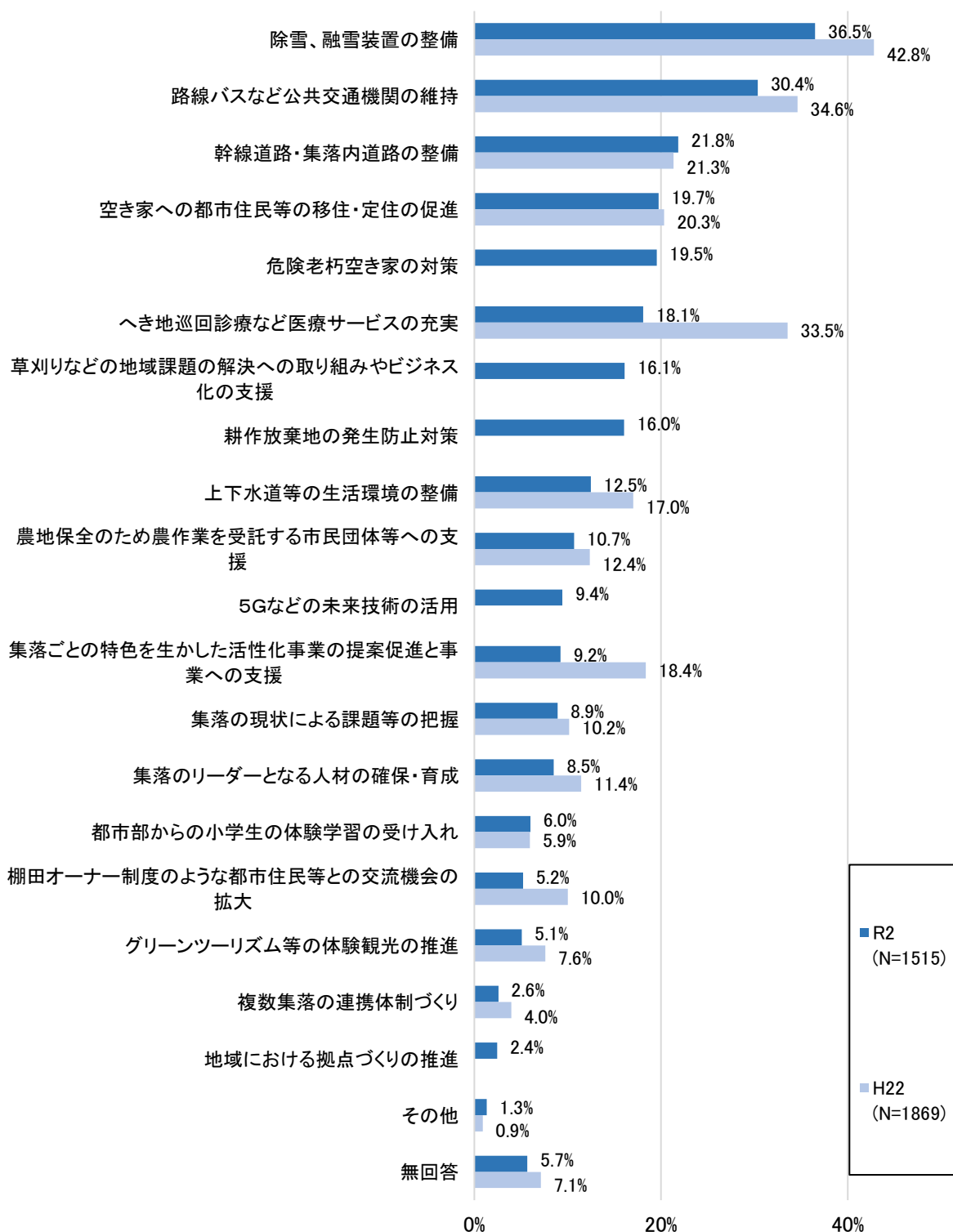
「ごみの減量やリサイクルの推進」、「河川等の水環境の保全」、「緑化等による森林の保全」など順位に変動はみられるものの関心事項の大きな変動はみられない。

【平成22年調査との比較】

回答割合の変動はみられるものの、「ごみの減量やリサイクルの推進」への関心が高いままとなっている。



問12 中山間地における活性化対策として、市が今後より力を入れるべき施策はどのようなものとお考えですか。次の中から3つまでお選びください。



「除雪、融雪装置の整備」、「路線バスなど公共交通機関の維持」、「幹線道路・集落内道路の整備」など生活環境に関することについての回答が多かった。

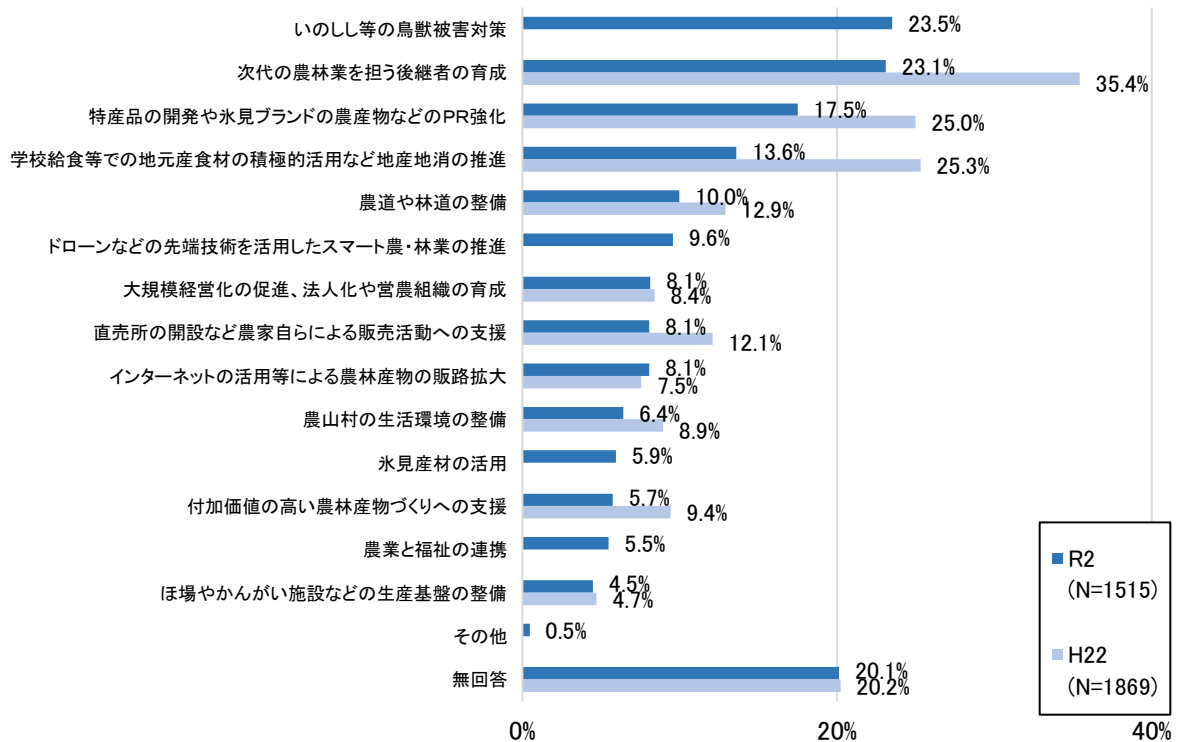
【平成22年調査との比較】

「へき地巡回診療など医療サービスの充実」についての回答が減少し、新たに設けた「草刈りなどの地域課題の解決への取り組みやビジネス化の支援」、「耕作放棄地の発生防止対策」や「5Gなどの未来技術の活用」の回答が見られた。

## 6 産業振興において力を入れるべき施策

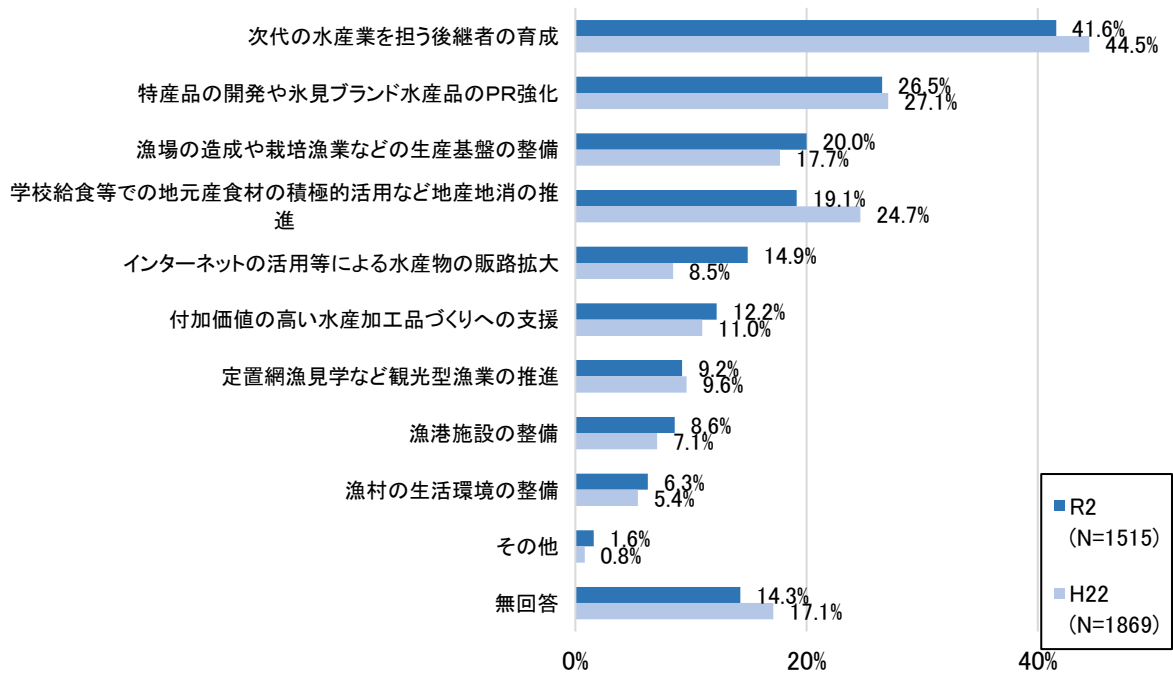
問13 産業振興について、市として今後どのような施策に力を入れていくべきとお考えですか。

(1) 農林業の分野で、力を入れるべき施策を2つまでお選びください。



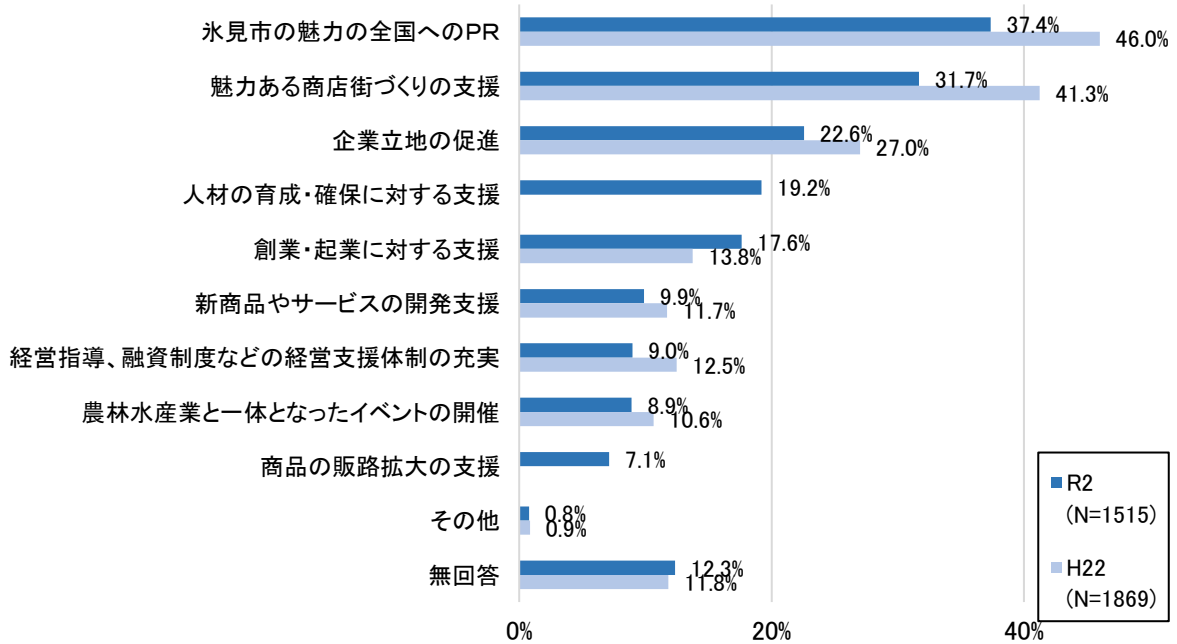
前回調査にはなかった「いのしし等の鳥獣被害対策」についての関心が一番高くなっている。また、後継者の育成を望む回答も高いままとなっている。

(2) 水産業・水産加工業の分野で、力を入れるべき施策を2つまでお選びください。



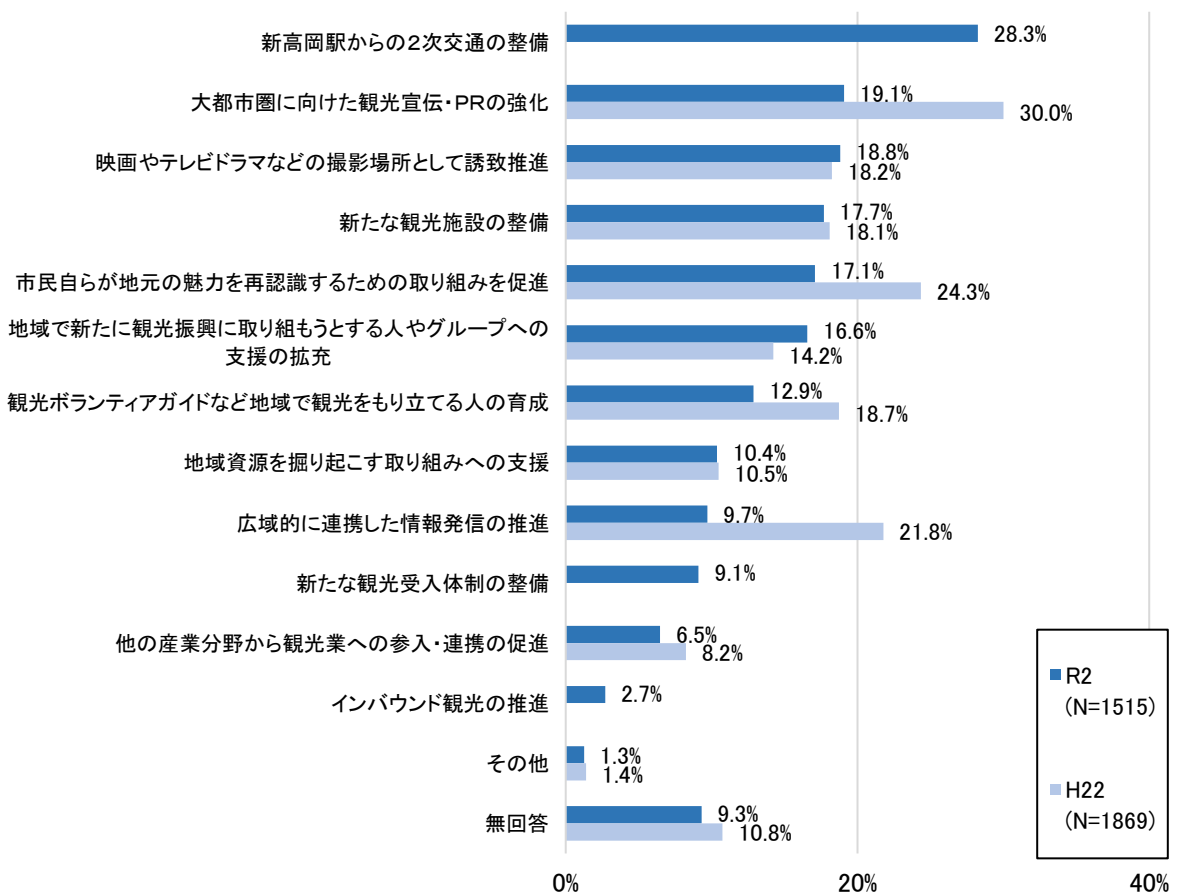
前回調査と比べると「インターネットの活用等による水産物の販路拡大」を望む回答が8.5から14.9%と大きく伸びた。

(3) 商工業・サービス業の分野で、力を入れるべき施策を2つまでお選びください。



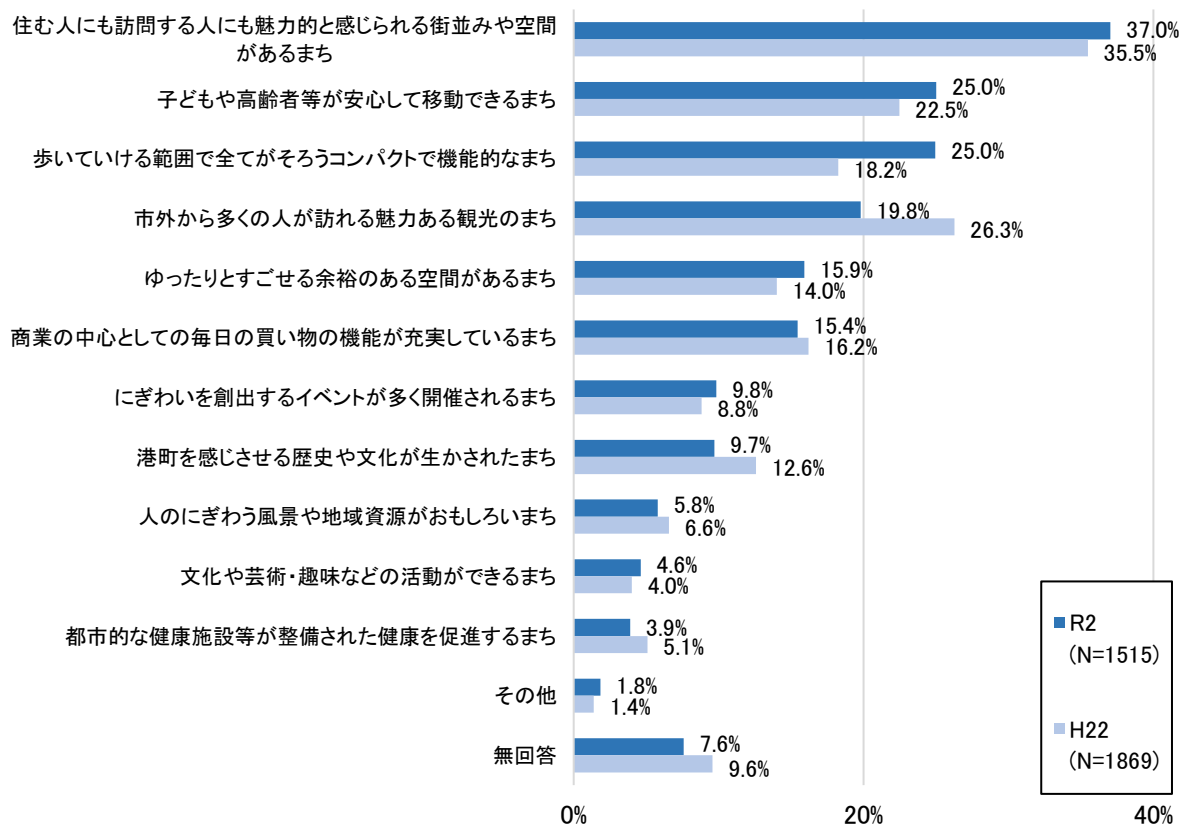
新たに設けた「人材の育成・確保に対する支援」を望む回答も見られた。

問14 観光振興について、市として今後どのような施策に力を入れていくべきとお考えですか。次の中から2つまでお選びください。



前回調査にはなかった「新高岡駅からの2次交通の整備」を望む回答が一番多かった。

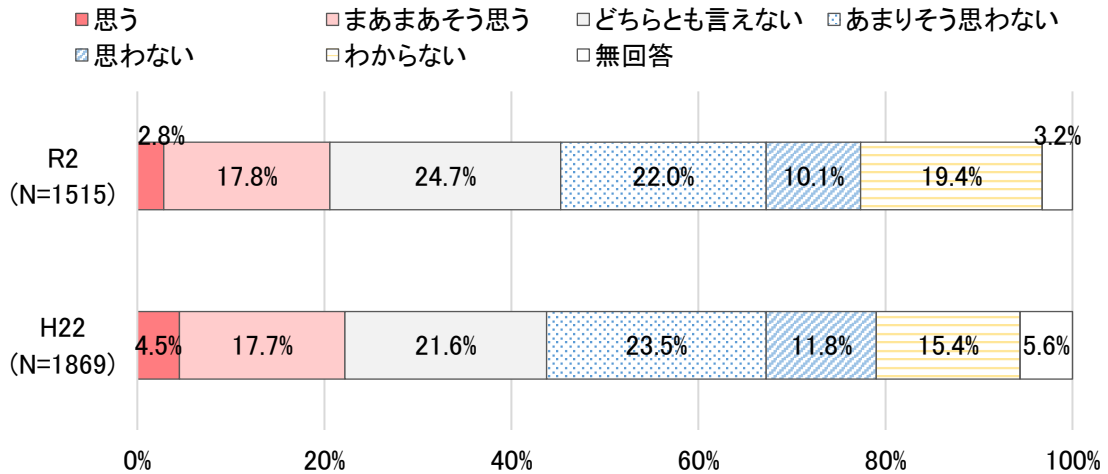
問15 中心市街地の活性化についておたずねします。今後どのような中心市街地にすべきとお考えですか。次の中から2つまでお選びください。



「市外から多くの人を訪れる魅力ある観光のまち」については、26.3から19.8%に大きく減少した。

問16 市民と企業、行政が協力してまちづくりを行う「地方創生」についておたずねします。

(1) 現在の氷見市は、地方創生に向け、市民と企業、行政が協働してまちづくりに取り組んでいると思いますか。



(2) 地方創生に向け、市民ができること、市民がやるべきことは何だと思いませんか。次の中から3つまでお選びください。

順位	市民	企業	行政
1	高齢者の支援 26.6%	産業振興 32.4%	子育て支援 31.3%
2	まちの美化・緑化 25.5%	ごみの減量・リサイクル 23.5%	高齢者の支援 31.1%
3	健康づくり 24.0%	自然保護・環境保全 22.5%	移住定住の促進 24.7%
4	ごみの減量・リサイクル 23.4%	子育て支援 20.6%	産業振興 21.1%
5	子育て支援 22.5%	高齢者の支援 16.8%	防災活動 20.4%

(3) 「地方創生」を推進していくためには、何が必要だと思いますか。次の中から2つまでお選びください。

